



【友好議連総会の開催】～二つの戦略的経済協定への支援を要請

本年9月、日本とウルグアイは外交関係樹立105周年を迎えたことを祝して、同月29日、コッセ副大統領兼上院議長主催によるウルグアイ日本友好議連総会が国会議事堂にて和やかに開催されました。同副大統領は、益々複雑化する国際情勢において、一層活発な議員交流を通じた二国間関係強化の重要性を強調しました。一方、岡田大使は、現在、ウルグアイが加入交渉中のCPTPP及び本年交渉入りが正式に発表された日本メルコスールEPAは、相互利益となる戦略的な協定であり、超党派による支援を願いたいと要請しました。更に、日本が今年発表した進化した「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」という外交ビジョンへの支持を求め、また、本年度に予定されているオルシ大統領の訪日への期待を述べました。



(出所：ウルグアイ議会写真局提供)

【ウルグアイの治安向上に向けた協力】～UNODC及びJICA研修

日本政府は、約300万米ドルを拠出し、国連麻薬犯罪対策事務所（UNODC）を通じて、今年から初めて中南米地域における麻薬対策及び海上安全保障に関連する事業を実施しています。ここウルグアイでは、これまでに税関、国家海上保安機関、警察職員的能力強化を目的に、合成麻薬等の検知・取扱の研修、及び海上貨物のリスク分析の研修を実施しました。岡田大使は2回の研修開始式に出席し、これら事業は、国際的な物流網としてのモンテビデオ港の強靱性、信頼性向上に繋がる取組であり、中南米におけるサプライチェーンの強靱化を含めた経済安全保障の観点からも重要な取組である旨述べました。

8月24日から9月19日まで本邦で開催されたJICA課題別研修「矯正施設の運営及び犯罪者の更生」には、ウルグアイから矯正施設の幹部職員2名が参加しました。国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）との連携の下実施されたこの研修を通じて、研修参加者は女性、子ども、若年者等の弱者に対する矯正処遇の方策や更生・社会復帰を支援する実践的な取組



み等について知見を深め、参加各国における優良事例を相互に学び合いました。

このように、日本政府は、ウルグアイの治安向上に資する取組を支援しており、これは日本企業の活動や進出の基盤整備にも繋がっています。



【治安問題】～強盗、窃盗は減少するも殺人は増加

ウルグアイ内務省が公表した 2026 年上半期（1～6 月）の犯罪統計によると、犯罪認知件数は前年同期比 3.7%減少し、強盗（4.4%減）、窃盗（7.5%減）、自動車盗（8.3%減）などの主要な財産犯罪は減少しました。

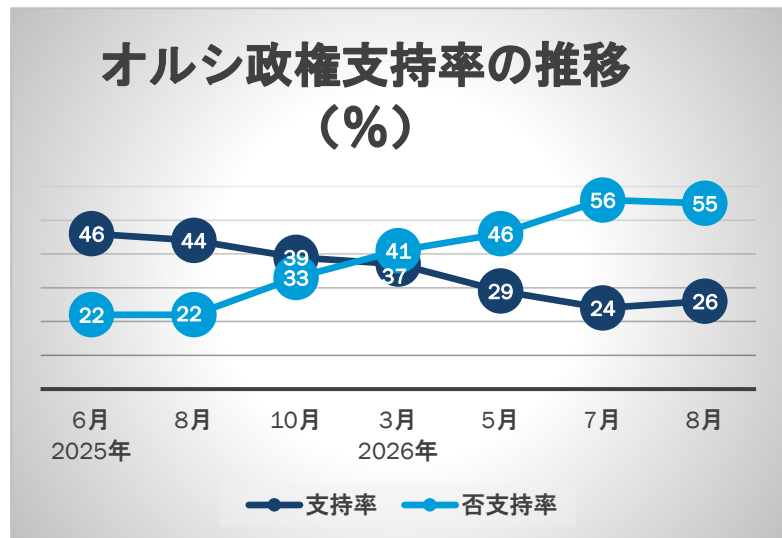
一方で、殺人事件は前年同期比 6.6%増加し、銃器による負傷者数も 7.4%増加しました。殺人事件の増加は主にモンテビデオ県及びカネロネス県に集中しており、4 月から 6 月にかけて増加傾向がみられました。

このように、多くの犯罪指標において改善傾向が認められるものの、凶悪犯罪や銃器犯罪については引き続き注意が必要な状況です。大使館では、在留邦人に対し、夜間の外出や治安上の懸念がある地域、人が多く集まる場所への立入りに際して十分注意するとともに、各種安全情報の確認や防犯対策の徹底について注意喚起を行っています。



【オルシ政権の支持率】～下落傾向に歯止め。政情は安定。

当地主要世論調査会社が発表した最新の政権支持率は26%で、前回調査の24%から若干改善しました。一方、不支持率は56%から55%に、どちらとも言えないとの回答は20%から19%に微減しました。政権2年目に入ったオルシ政権は、本年始めから支持率が継続的に下落していましたが、今回、その傾向に歯止めがかかった状況です。但し、政治アナリストは、支持率が上向きになったというよりは、支持率の低下が底打ちした状態だとの慎重な見方を示しています。政権支持率の低下は政府の弱体化に繋がるため、当然、好ましくないものの、ウルグアイでは政権任期である5年間で全うせずに大統領が辞任し政権交代する状況は考えにくく、その意味から比較的政情は安定していると言えます。



(出所：Factum 社発表の政権支持率調査結果)

【モンテビデオ港での労使問題】～労使間の溝が埋まらず、政府が介入

首都モンテビデオ港のコンテナ専用ターミナルを運営する TCP 社と港湾労組との間で、日雇い労働者の最低月給保障の改善などを主な争点とする労使交渉が行われてきましたが、双方の溝が埋まらず6月から断続的なストや業務の一部停止などが発生していました。そして、輸出入や国内物流への影響と共に、地域のロジスティック・ハブを目指すウルグアイにとって、国際的なイメージの低下が懸念されてきました。

度重なる労使交渉決裂の結果、9月、政府は、港湾業務における最低限の業務実施を保証する政令を発令し、これにより、船舶へのコンテナの積み込み・積下ろし、陸上運送からの輸出入貨物の引受け・引渡し、倉庫への保管等を含む業務の実施が確保され、1時間当たり25個のコンテナを処理することが暫定的に義務付けられました。一方、引き続き、より確定的な解決に向けた、労使交渉を通じた合意が模索されています。



(出所：TCP 社ホームページ)



【マクロ経済動向】～IMF 専務理事のウルグアイ訪問

7月、ゲオルギエバ国際通貨基金（IMF）専務理事が当地を訪れ、オルシ大統領と会談した他、オドネ経済財務大臣及びトロサ中銀総裁と意見交換を行いました。経済財務省の発表によると、双方は、ウルグアイの際立つマクロ経済安定性、制度的基盤、公共政策の継続性を特筆しつつ、経済成長を加速する改革の継続的な取組の必要性を確認しました。オドネ経済財務大臣は、同専務理事による「過度に慎重になり、バックミラーばかり見るのではなく（2002年に当地で発生した経済危機）、前を見据え、もう少しリスクを取るべき」との言葉を引用して、経済成長を目指す政策を推進する重要性を強調しました。なお、当地の2025年の経済成長率は1.8%であり、本年の同見通しは1.6%に留まっています。

【ウルグアイ「持続可能な工業団地拡張支援事業」に対する融資契約の調印】～JICAの海外投融資を通じた協力

日本と米州開発銀行（IDB）グループのパートナーシップ 50 周年を記念し、8月24日に財務省が IDB との共催により東京で開催した「日本－中南米・カリブ地域ビジネスフォーラム 2026」において、日本からの資金枠が合計 50 億ドルから 65 億ドル（約 1 兆円）に拡大されたことが発表されました。

ウルグアイにおける同パートナーシップ下での最近の取り組みとしては、5月に実現した工業団地拡張のための資金の融資が挙げられます。

これは、JICA が出資する「中南米・カリブ地域民間セクター開発信託基金（通称 TADAC）」を活用し、IDB グループの中で民間投融資を担う米州投資公社（IDB Invest）がウルグアイの持続可能な産業発展を目的として、同国の物流ソリューション企業 RAS グループとの間で調印した総額 3,000 万米ドルの融資契約であり、TADAC から 1,500 万米ドルが拠出されます。

本融資により、RAS グループはウルグアイとブラジルを結ぶ国道 5 号線に隣接する工業団地（Parque Industrial Ruta 5。以下、「RIP5」という。）の拡張及び関連する物流インフラの投資を行います。ウルグアイ政府は、中南米地域の貿易・物流のハブとして同国内での工業団地の整備を推進しており、RIP5 は政府から承認を受けた工業団地の一つです。

本融資によって、ウルグアイの持続可能な産業基盤の整備及び中南米地域経済の発展に貢献するとともに、近年関心が集まるメルコスール（南米南部共同市場）との関係強化及び日本企業による南米地域進出の足掛かりの場となることも期待されます。





【セロラルゴ県「日本学校」の命名】～6校目の「日本学校」の誕生

8月11日、セロラルゴ県リオブランコ市にある第138小学校を「日本学校」と命名するための決議が上院本会議で行われ、7月14日に行われた下院本会議での議決と同様、全会一致で可決されました。岡田大使も傍聴し、参加された複数の上院議員からは、日本のウルグアイへの協力への感謝と、今後の日本との更なる関係強化への期待が述べられました。

現在、ウルグアイに「日本学校」と命名された小学校は5校（モンテビデオ県、カネロネス県（2校）、サンホセ県、リベラ県）存在し、6校目の「日本学校」となりました。「日本学校」を通して日本に対する理解が深まり、日本とウルグアイの関係がより強化されることを願っています。



【日本学校での文化交流】～心温まる文化交流

8月27日、モンテビデオ市内にある第72番「日本学校」の児童を対象に、大使館員による茶道のデモンストレーションを行い、着物、浴衣、法被など、日本のさまざまな伝統衣装についても紹介しました。

これに対し、子どもたちが日本をテーマにしたエイサー等のダンスパフォーマンスを披露してくれた他、より良い世界への願いを一羽一羽の鶴に込めた千羽鶴の箱をプレゼントしてくれました。

また、岡田大使は9月11日にはサンホセにある第117番「日本学校」も訪れ、子どもたちと交流を行いました。





【ウーゴ・ファトルーソ氏勲章伝達式】～英利外務大臣政務官他、多くの日本からのビデオメッセージ

7月7日、サラ・シタローサ劇場において、音楽家ウーゴ・ファトルーソ氏に対する旭日小綬章の勲章伝達式兼コンサートが行われました。同イベントはウルグアイ外務省より「外務省の重要行事 (Interés Ministerial)」に指定されました。ウルグアイ人グループによる三味線や和太鼓といった日本の伝統音楽が披露され、その後ファトルーソ氏をはじめとする「キンテット・バリオ・スール」によるカンドンベの演奏がありました。

また、本年6月にウルグアイを訪問した英利外務大臣政務官や、ファトルーソ氏の友人たちからのビデオメッセージも上映されました。

その後の式典では、岡田大使から勲章と勲記が伝達されるとともに、ファトルーソ氏からは、これまで同氏がお世話になった全ての人への感謝を述べられました。



【フォルラン監督の壮行会】～フォルラン監督がセレッソ大阪の思い出を語る

9月9日、同月24日に宮城県で開催されるサッカーの麒麟チャレンジカップで、日本代表と親善試合を行うウルグアイ代表のディエゴ・フォルラン新監督を大使公邸にお招きし、壮行会を行いました。偶然にも試合が行われた9月24日は日本とウルグアイの外交関係が樹立した記念日でもあり、今年は外交関係樹立105周年にあたります。フォルラン監督からはセレッソ大阪時代の日本の良い思い出や親善試合で日本を訪問することへの期待が語られました。





試合結果は3-1で日本の勝利となりましたが、この外交が樹立した日に行われた親善試合を通して、日ウルグアイ関係が更に良くなることを願います。

【大使館主催：日系人若者との交流会】～約40年ぶりの青年部の復活

7月11日、第2回日系人若者との交流会を開催し、約30名の日系人若者が参加しました。本交流会は、日系人若者同士のネットワーク形成及び約40年ぶりとなる青年部再活性化の機運醸成を目的として実施したものであり、スポーツ交流や昼食会、Ocean Network Express (Uruguay) 者、JICA、在ウルグアイ日本人会による講演を通じて参加者間の親睦を深めました。

また、ワークショップでは、青年部内の役割分担や活動目標、定期的な会合の実施等について活発な意見交換が行われ、まずは交流イベントの開催から取り組むことや、参加者それぞれが主体的に貢献することの重要性が共有されるなど、今後の青年部活動に向けた具体的な方向性を確認することができました。



(了)